

◆ 今週のコメント

- ・ 突発性発しんの定点当たり報告数は0.49(20例)で、先週(0.46)に続き過去5年平均値(0.40)を上回る値となっています。年齢は、全て1歳以下の報告です。
- ・ デング熱(デング熱)の報告が1例で、本年初めての報告です。推定感染地域は国外(インドネシア・台湾)で、推定感染経路は蚊です。
- ・ アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(第2週追加分)で、本年初めての報告です。推定感染地域は国内で、推定感染経路は性行為感染(異性)です。昨年(平成19年)の報告数は22例で、過去7年間(平成12年～平成18年)の報告数6～18例と比べて最も多くなっています。推定感染地域は、国内での感染が17例で、77.3%を占めており、推定感染経路は、経口6例、性行為3例、不明13例です。

◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

- ・ 定点当たり報告数は4.16で、本市、全国ともに第52週、第1週は報告数が減少しているものの、その後、再び増加していますので、今後の動向にご注意ください。詳細は、トピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 9例(喀痰塗抹陽性 1例)【1月以降の累積報告数 19例(喀痰塗抹陽性 6例)】
- ・ 四類:デング熱(デング熱) 1例
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例(第2週追加分)

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	4.16	283
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.85	240
	② 水痘	1.00	41
	③ 突発性発しん	0.49	20
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.17	7
	⑤ 手足口病	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
未同定ウイルス(1)	感染性胃腸炎(第47週)	FC	ノロウイルスGI(1)	感染性胃腸炎(第52週)	FC
RSウイルス(2)	RSウイルス感染症(第1週) かぜ症候群(第50週)	NP	ノロウイルスGII(4)	感染性胃腸炎(第52・1週) 不明(第52週)	FC

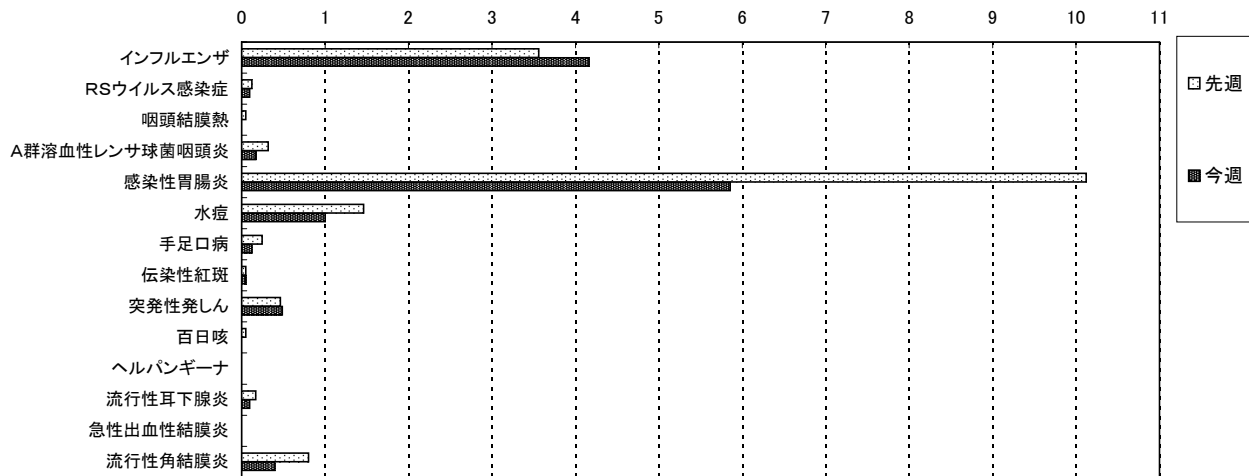
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

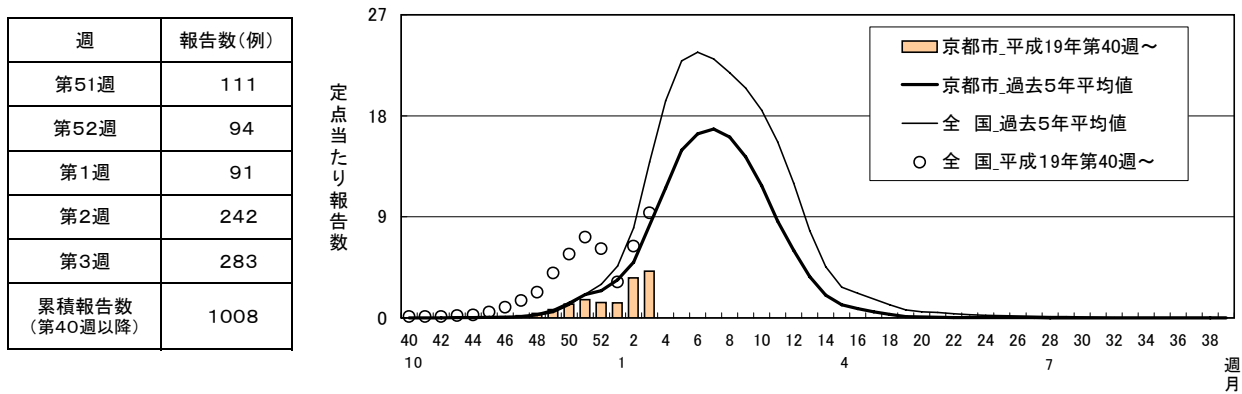
(注)京都市のデータは、平成20年1月28日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第3週)と先週(第2週)の定点当たり報告数の比較

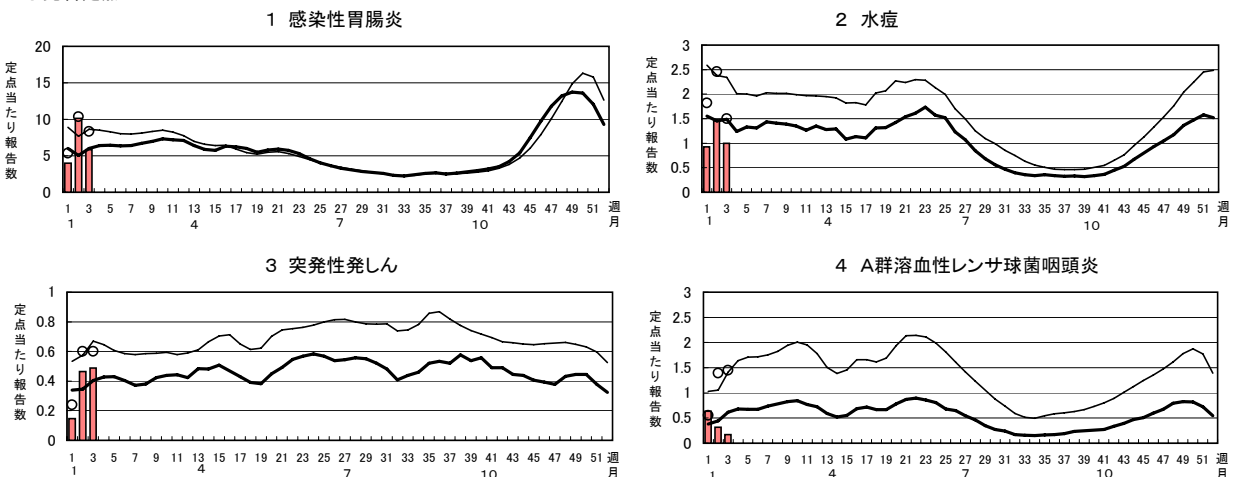


2 インフルエンザの定点当たり報告数の推移

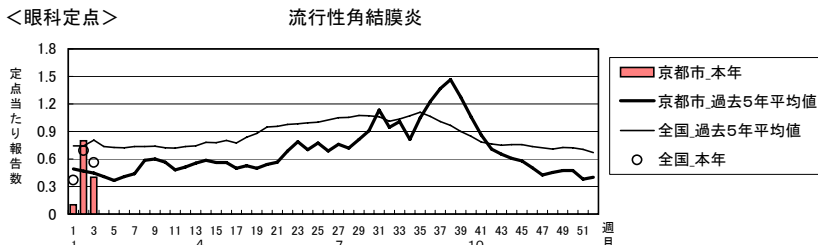


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



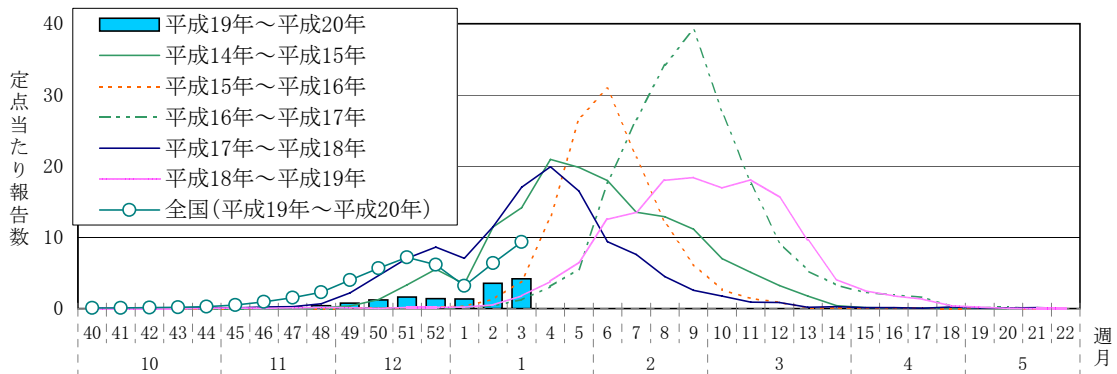
今週(第3週)のトピックス: <インフルエンザ>

定点当たり報告数は4.16で、先週(3.56)に比べやや増加しています。本市、全国とも第52週及び第1週は、医療機関の休診や、学校等の冬期休暇等の影響もあり、報告数が減少していますが、その後、再び増加していますので、今後の動向にご注意ください。

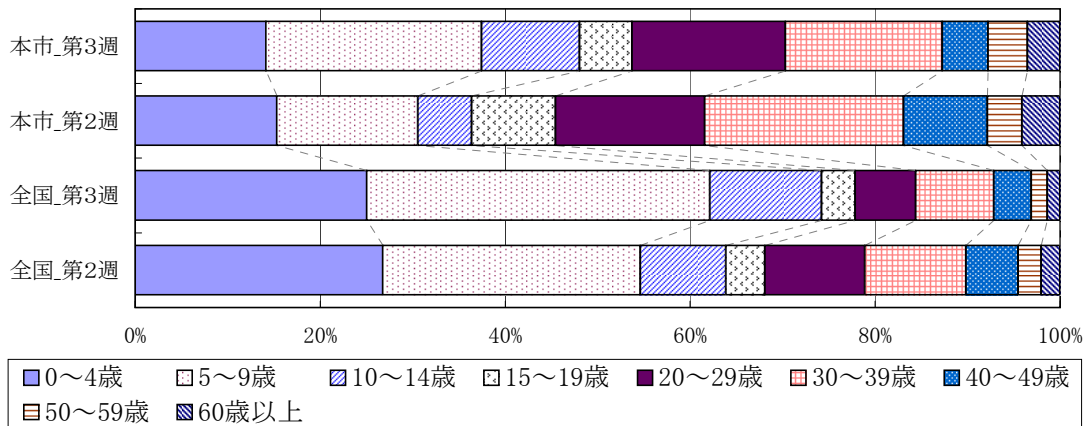
年齢群別に構成割合をみると、先週及び今週ともに、本市は全国に比べ、9歳以下での報告が少なくなっています。また、本市の今週の報告を、10歳階級別にみると、0～9歳(37.5%)、30歳代(17.0%)、20歳代(16.6%)の順となっています。

平成19年～20年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況を見ると、本市ではAH1型 2件、B型 1件の報告で、全国では、AH1型が報告全体の9割以上を占めています。

定点当たり報告数の推移



全国及び本市の年齢群別構成割合の推移



本市の平成19年～20年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

AH1型 2件
(第50週, 第51週)
B型 1件
(第46週)

(本市、全国ともに平成20年1月28日現在までに検出された件数に基づく)

全国の平成19年～20年シーズンの週別インフルエンザ検出状況

